

子育てコラム26 parenting column

子育ては楽しいこともあるけど悩みもたくさん。
そんなママのための役に立つアドバイス。

「遊びの発達 —小学校低学年—」

高知市では昭和30年代頃まで空き地や原っぱが多く、あらゆる場所が子ども達の恰好の遊び場になっていました。「道」も子どものあそび場でした。その頃は遊び空間も遊び時間も遊び仲間も遊び内容も充実していました。地域で小学校低学年による、弟や妹、近所の幼少児を引き連れての小集団遊びが盛んでした。この縦集団で、幼少の子は年上の子からさまざまな知恵や強さを学んでいましたし、小学生は年下の子と関わることで、思いやりやいたわりの心、そして守りたいという気持ちも培いました。子ども達がアイデアを出し、自作自演で創造性豊かに遊びを展開していました。さまざまな遊びの仕方は子ども達がお互いに教え合っていましたので、遊びの内容に困ることはありませんでした。何が面白かったのかしよっちゅう笑っていましたが、誰かが泣いていたり、喧嘩もしていました。危険な激しい遊びをして大人から叱られることもありましたが、沢山の外遊びの経験で、危険回避能力や敏捷性は自然と身に付いていました。

昭和40年代に入り、広域都市計画で急速に空き地や原っぱがなくなった記憶がありま

す。丁度その頃から白黒テレビが普及し始め、テレビを観たくて明るい内から外遊びを中断するようになり、遊び時間や空間、そして遊び仲間も減少していきました。

個性や性格もありますが、子どもは本来激しく体を動かすことが好きです。子ども同士での遊びの伝承がなくなりつつある現代では、小学生になっても親や地域の大人が体を使って沢山の遊びを伝えたいものです。子どもはそこから自分で選び、自分なりに工夫し創造していきます。

ぜひお子さんに、自分の子どもだった頃のこと話してみてください。親の幼少の頃の話をお聴くのは、子どもにとってワクワクドキドキの体験かもしれません。



子育てひろっぱ「めぐみ」代表
弘田 恵子

子育てひろっぱ「めぐみ」代表。
大阪府立母子保健総合医療センターNICUや母乳育児相談室で勤務。その後20年間高知

市内のめぐみ保育園で園長を務め、4月から子育てひろっぱで、妊娠中からの悩みサポートを行う。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)、上級睡眠健康指導士。

